

日本遺産② 巨大な木太刀を担いで「大山詣り」

江戸庶民の信仰と行楽の地

写真協力 伊勢原市



元禄期から 大人気となった 信仰と物見遊山の旅

粋な江戸っ子が大挙した 関東屈指の男山

神奈川県北西部、丹沢山地の東端に位置する標高1252メートルの大山は、古くは万葉集にも詠まれ、関東一円からその雄姿を望むことができる名峰である。その地形により相模湾からの水蒸気が上り、山頂には雨雲がかかることが多かったため、「雨降山」とも呼ばれ、農民が雨乞いの祈りを捧げるようになった歴史

に供える御神酒杓を担いだ大山詣りの参詣者。絵は東海道の保土ヶ谷宿辺りを俯瞰している。広重作「東海道五十三次組見図会 程ヶ谷」（国立国会図書館蔵）



を持つ。そこから山頂の巨石が御神体「石尊大権現」となり、石尊信仰と呼ばれる山岳信仰が誕生した。庶民が旅に出るようになったのは江戸時代中頃で、五街道が整備され

たこと、太平の世が続き、庶民文化にゆとりができたことが大きい。とはいえ、現実的には誰もが気軽に出かけられるわけではなかった。そんな中、江戸から近く、通行手形の必要もない大山詣りは時代が下るにつれ、五穀豊穡や商売繁盛の参詣先として一般化していく。

元禄期（1688～1704）には、各地から集団で大山詣りに出かける風潮が生まれたといわれる。近所同士や同業者が「講」という組織をつくり、費用を融通し合って、団体で参詣の旅に出かけたのだ。この集団が「大山講」と呼ばれる、いわ

ゆる現代の団体ツアーのようなものだった。また、男山として信仰を集めた大山は、火消や大工、鳶職人などの粋を信条とする者たちから大人気となった。

当時、山頂への参詣が許されたのは旧暦の6月27日から7月17日までの20日間。この間に参詣者が押し寄せ、大山界限は賑わいを見せた。宝暦期（1751～1764）には年間20万人以上が大山を目指したとされ、江戸の人口が約100万人だった当時、5分の1に相当する人数と思えば、隆盛ぶりがうかがえる。



大山詣りの人々を描いた浮世絵。役者絵も含め、参詣者たちの水垢離の様子は、多くのが伝わってくる。歌川豊国作「大當 大願成就有ヶ瀬堂」（伊勢原市蔵）

絵師が描いている。当時は粋な彫り物を施した肌を披露する職人たちがごった返したとのこと。男たちの熱気が伝わってくる。歌川豊国作「大當 大願成就有ヶ瀬堂」（伊勢原市蔵）



屋形船が行き交うそばで、太刀を手に行水している5人の男たちの姿が見える。江戸の両国は、いまでも毎年花火大会が行われることで知られるが、その両国橋東詰めには大山詣りに向かう前に、身を淨める水垢離場があった。貞厚作「東都両国夕涼之図」（部分／国立国会図書館蔵）



歌川広重の代表作「名所江戸百景」。その1枚、「名所江戸百景 京橋竹がし」には、月明かりに照らされた京橋を渡る大山詣りの人々がさりげなく描かれている。目印となるのは、担いでいる纏。大山詣りの滞りに、大森名産の麦わら細工の纏を買う風習があったからだ。夜の爛宅。江戸からの参詣者がいかに多かったかを伝える（国立国会図書館蔵）

Episode 逸話

大衆化した山岳信仰 大山、富士山、高尾山の関係

それまで修験者の修行の場だった山岳信仰の霊山へ、庶民が講を作って登頂するようになったのは江戸時代。大山以外にも富士山、高尾山も庶民の参詣地として人気となった。高尾山薬王院には、富士浅間神社を勧請したとの記録がある。富士山まで出掛けなくても高尾山に参詣すれば同様のご利益があるというもので、富士山登頂のできない高齢者や女性などに人気となった。また、男神の大山と女神である富士山の両方に登頂する「両参り信仰」が好ましいとされた。高尾山から富士山頂を目指した後、大山参詣をする行程もあった。

現在の大山は春の桜から秋の紅葉まで、四季を通じて景観の素晴らしさで人々を魅了する。



関東屈指の男山として知られる大山。都心からも近いが豊かな自然が広がる。

歌舞伎や浮世絵にも
登場した参詣と名所

大山詣りは、大山寺に祀られる「不動明王」と、山頂の「石尊大権現」を目指して登拝する。江戸の庶民たちは参詣の目的を持ちながらも、道中ではもとより、参詣前に心身を浄める滝垢離では、火消や葺の職人たちは自慢の彫り物を見せ合い、勝負事に縁起がよいとされる大山名物のこまを買うなど、信仰と観光の両方を満喫した。

現在、まず訪れるのは山の中腹、標高約700メートルに位置する大山阿夫利神社下社だ。大山詣りの目的地の一つで、明治政府による神仏分離政策によって大山寺が廃された後に、大山寺の不動堂（本堂）跡地に、この下社が建立された。

つまり、ここは元の大山寺があった場所で、江戸時代に人々が奉納した納め太刀がいまも拝殿には残されている。さらに江戸時代から300年の歴史を持つ大山能狂言なども秋の例大祭で奉納され、その伝統はいまなお受け継がれている。
そして江戸時代に講の一行が目指

した大山寺は、明治に入り本堂が現在地に再建され、いまも「大山の不動様」として信仰を集めている。



大山中腹の標高700mほどの位置に鎮座する大山阿夫利神社下社からの眺望。天気によれば江の島や三浦半島はもちろん房総半島や伊豆大島も。「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で二つ星を獲得した眺め。

大山寺の本尊は国指定重要文化財「鉄造不動明王及び二童子像」。毎月8のつく日に開帳される（大山寺蔵）



納め太刀は、当初は30cmほどだったが、徐々に大きくなり、最大では7mに及ぶものもあったという。



滝、納め太刀……
粹を極める
大山登頂！

大山寺境内の背景には富士山、高尾山、左の相模湾に浮かぶ江の島、その奥には伊豆半島まで。ダイナミックな構図にして緻密さも伴う力作。霊山としての趣が伝わる。五雲亭貞秀作「相模国大磯郡大山寺雨降神社真景」（伊勢原市教育委員会蔵）



Episode 逸話

車窓の眺めも楽しい
大山ケーブルカー

参詣者が登った山道は現在ケーブルカーが運行し手軽に登拝ができる。20分おきに標高差278m、距離約0.8kmを約6分で走行するケーブルカーの開業は昭和6(1931)年で、戦中での休止を経て昭和40(1965)年に再開。平成27(2015)年の新型車両の導入では、架線の撤去、枕木の交換など大規模なものだった。車両の窓も大きくなり、より景色が楽しめるようになった。



大山の新緑をイメージした色の車両グッドデザイン賞も受賞。

SPECIALTY

名物



大山こま

江戸時代から大山土産として有名なのが、大山こま。大山の木地師によってつくられる縁起物で、金回りがよくなると伝えられる。製作技術は市の指定民俗文化財になっている。大山こまの形をした最中もあり、こちらも土産物に人気。



大山阿夫利神社（右）は、崇神天皇の代に創建されたと伝わる雨乞い信仰の社。その名称も「雨降り」に由来するともいう。300年以上の伝統を誇る大山能、そして春日大社から伝わった優舞（左）・巫子舞は、いまなお継承されている。



天平勝宝7(755)年に聖武天皇の命により東大寺別当（長官）の良弁が開創したと伝わる大山寺。江戸時代の人々が納め太刀を奉納した大山詣りの中心的聖地。現在の大山阿夫利神社下社のある位置に建てていたが明治の神仏分離で廃寺となり、明治時代中頃に現在の地で再建された。





高部屋神社は、平安時代に大山一帯の糟屋庄を支配した糟屋氏ゆかりの神社。本殿は、「五間社流造」という形式で、正面の柱間が五つあるもの。同様のつくりは県内では鶴岡八幡宮の若宮本殿など、名だたる神社にしか見られない。国登録有形文化財。

大山詣りで賑わった厚木宿。近くの相模川でのアユ漁も盛んで、幕府献上品としても使われていたほど。大山道を通って江戸まで運ばれたアユは、江戸っ子にも人気だったという。厚木宿の様子を伝えるベアト撮影の古写真（放送大学附属図書館蔵）



右の絵は広重が描いた藤沢「南湖の松原左富士」。現在の茅ヶ崎市から鳥井戸橋に差し掛かる付近で、「南湖の左富士之碑」の記念碑が建つ。左は平塚の馬入川の渡し。相模川の下流は馬入川と呼ばれる。行き交う帆掛け船の遠方が大山。左に富士を望む景色はいわゆる絶景スポットで、ここから描かれた浮世絵も多い。広重作「五十三次名所図会 七 藤沢、八 平塚」（国立国会図書館蔵）

立ち寄り所



大友皇子の墓

日向薬師近くに住つ石雲寺には、壬申の乱で敗れ自害したはずの大友皇子が、実は生き延びていたという言い伝えがあり、その墓が残されている。最寄り交通機関は日向薬師バス亭。現在でも石雲寺の貴い場所として諸人の参詣が絶えない。



戦国武将・太田道灌の首塚

文武両道に秀でた戦国武将として知られる太田道灌は、この地で生涯を閉じた。市内には2カ所の墓があり、一つは道灌の叔父であり、鎌倉・建長寺の長老である周蔵禪師を中興開祖とする大慈寺の首塚。3基のうち、中央が道灌の墓とされる。もう一つは茶臼に付したという洞昌院。



江戸から藤沢宿を経て、四ツ谷の追分から大山方面へと向かう途中には、田村の渡しがあった。絵は渡し場へと下る高台から相模川越しに大山を望んだもの。国芳作「相州大山道田村渡の景」（伊勢原市蔵）



日向薬師の本堂は国重要文化財の建造物で、本尊の薬師如来像を含め国重要文化財が多数。寺には源頼朝と妻の北条政子も参詣したと伝わり、県の有形民俗文化財の大太鼓は頼朝が奉納したとされる。



日向薬師の「神木のほり」は、大山の修験者が入山する前後に行っていた儀式。山伏姿の修験者が5mほどの椎の立木に登り、行の満願と安全祈願の口上文を読み上げる。その後、護摩を焚くなどの伝統に則り、現在も、春の例大祭で再現されている。

その他、大山周辺には歴史的な名所も多い。霊亀2(716)年に行基が創建したと伝わる日向薬師(靈山寺、現・宝城坊)は、国重文の銅鐘や厨子、仏像など、数多くの貴重な文化財を有する古刹である。このように、大山詣りと前後の物見遊山により、近郊は参詣客で賑わっていった。現在の厚木市内の厚木宿は、大山道、八王子道の交わる宿場町として栄え、相模川の水運の要所として渡しもあり、小江戸とも称される賑わいだったという。そのほか、男山である大山詣りの帰りに江の島の女神「弁財天」にも立ち寄り、男神と女神の両参りも流行った。大山を中心に周辺は、文化

その他、大山周辺には歴史的な名所も多い。霊亀2(716)年に行基が創建したと伝わる日向薬師(靈山寺、現・宝城坊)は、国重文の銅鐘や厨子、仏像など、数多くの貴重な文化財を有する古刹である。このように、大山詣りと前後の物見遊山により、近郊は参詣客で賑わっていった。現在の厚木市内の厚木宿は、大山道、八王子道の交わる宿場町として栄え、相模川の水運の要所として渡しもあり、小江戸とも称される賑わいだったという。そのほか、男山である大山詣りの帰りに江の島の女神「弁財天」にも立ち寄り、男神と女神の両参りも流行った。大山を中心に周辺は、文化



的にも経済的にも恩恵を受けたといえよう。

関東一円から 大山へ「大山道」と 参詣の文化

すべての道は大山に
人々を魅了した旅路

大山信仰が爆発的な人気となった江戸時代は、関東のすべての道は大山に通ずるといわれたほどで、大山を指す参詣の道は「大山道」と呼ばれた。

江戸の赤坂から青山、矢倉沢へ向かう「青山通り大山道」や「府中通り大山道」、「八王子通り大山道」をはじめ、東海道沿いから大山方面へ向かう「粕尾通り大山道」、「田村通り大山道」、「羽根尾通り大山道」、「六本松通り大山道」などが知られている。

これらの道は、もともと地域の生活道だったが、そこに各地で結成された「大山講」の人々が献納したと思われる石灯籠や不動尊が立ち、地域の人々が建てた道標などにより、

次第に信仰の道として整えられていった。

当時は江戸を早朝に出発することも多かったという。いわゆる七つ立ち(午前4時頃)で、日本橋を出発するときには麦湯のどをうるおした。参詣者が道中に担いだ木太刀の奉納は、源頼朝に由来するとされ、木太刀と鈴、提灯を掲げ、御神酒を入れた御神酒樽を担いで出かけた。

大山詣りの道中は、江戸から片道約18里(約70キロ)で、関所を通ることもなく、往復でも1週間以内の旅であった。好立地な利便性と、霊験あらたかな利益がありつつも、厳しい修行を必要としない、庶民に最適な信仰と物見遊山を兼ねた大山詣りの旅は、なるべくして大人気になったといえる。



大山道に点在する道標。正面に「大山道」の文字が刻まれ、大山寺の本尊にちなみ、不動明王が彫られたものが多い。

その他おすすめスポット & 情報

良弁滝

大山寺を開山した良弁僧正が最初に水行を行ったという高さ3mほどの滝。江戸中期以降に大山詣りが盛になると、人々が滝で水垢離をとる様子が錦絵の題材になり、大山への憧れを誘った。北斎も「相州 大山ろうべんの瀧」でその様子を写している。



こま参道

元々は大山参詣の本道だった「もみじ坂」が関東大震災で崩れてしまったため、右側に新しくつくられたという「こま参道」。参道沿いの飲食店や旅館軒下には、大山請願の目印となる、幸せを呼ぶ色とりどりの布まなぎがはためく。



比々多神社

平安時代に編纂された延喜式に記載されている比々多神社。縄文中期の環状配石が発掘され、周辺には多数の古墳も。日本はもとより世界でも最古級の土器が見つかった境内に建つ三之宮郷土博物館には、出土品や古文書、神器具など約2000点が展示。



石雲寺

奈良時代に、雲峰大山の中腹に華嚴法師が紫雲に導かれて開いたと伝わる古刹、石雲寺。干ばつによる不作や飢饉をよけるための雨乞い信仰に関連して祀られる雲石・雨降石は、かつて大山寺との間で争奪戦が繰り広げられたという。



伊勢原観光道灌まつり

江戸城の築城で知られる太田道灌。伊勢原でその生涯を閉じた戦国武将にちなんで伊勢原市最大の祭り。毎年10月に行われる「道灌公鷹狩り行列」や「北条政子日向薬師参詣行列」は人気芸能人が太田道灌や北条政子に扮し盛り上がる。



観光農園

伊勢原は古くから様々な果物が栽培される「フルーツの郷」。観光農園も20軒ほどあり、季節ごとにイチゴやブルーベリー、ブドウやみかんなどのもぎ取りができる。詳しくはJAいせはらのサイトで。http://www.jakanagawa.gr.jp/kn5139/oshirase/mogitori/



※写真はイメージ



Course 2
日本遺産 ②
 巨大な木太刀を担いで
 「大山詣り」
おすすめコース

～ 徒歩 ● ケーブルカー
 大山駅バス停～旧道～大山阿夫利神社社務局～愛宕滝～良弁滝～大山ケーブルバス停～こま参道～大山ケーブルバス停 GOAL
 良弁滝
 愛宕滝
 大山阿夫利神社社務局
 大山
 大滝 START
 大山駅バス停
 子母上
 子母上
 浄観寺
 石雲寺
 (伝)大友皇子の墓
 日向川
 浄観寺

御師と講の人々が結んだ信頼の絆

大山詣りが大衆化した背景には、地道な布教活動をした人々の存在があった。「御師」(明治以降は先導師)と呼ばれた庶民の参詣者を導く者たちだ。

天正18(1590)年、北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされたとき、大山の修験者たちは武装し、北条側についた。江戸に入った徳川家康はこの僧兵の存在を危惧し、大山を純粋な信仰の地とする働きかけを行う。寺領を寄進するなど厚遇した一方、修験者や妻帯者の僧侶を下山させたのだ。

しかし、その後もそれらの者たちは大山から離れず、神殿を構えた宿坊を山の中腹で営み、ここで参詣者を迎えて参詣の案内をしながら、年間の多くを関東一円の講の檀家を訪問する布教活動を行った。こうして講と御師の信頼関係の元に、遠路、参詣者は御師の宿坊を目指して行ったのである。

現在、大山は江戸の文化に触られる観光地として人気だが、いまでも豊作や商売繁盛を祈願する農業関係者や企業の人も多い。

大山詣りを
 誘導した「御師」と
 おもてなし文化



刀を捨てた修験者たちが御師となって、参詣者の宿泊から登拝の道案内までの大山詣りのガイド的な役割を果たした。いまでも何軒もの宿坊が軒を並べる。



宿坊は、屋内に大山阿夫利神社の分社である神殿を備えている。宿泊者にとって無事を祈願するお祝いも貴重な体験である。宿泊情報は大山旅館組合のHPに詳しい。http://ooyama-ryokan.com/

SPECIALTY

名物

とりどりの豆腐料理

江戸時代から伝わる大山の名産品の豆腐。参詣客が宿坊での宿泊費代わりに大豆を渡したことから、豆腐づくりが始まったという。丹沢山系の湧水を使ったその味は格別だ。

日本遺産の構成文化財一覧

- [1] 大山 [2] 雲山寺 (現・宝城坊。通称・日向薬師) [3] 石雲寺 [4] 大山寺 [5] 鍛造不動明王及び二童子像/国重文 [6] 阿夫利神社 (現・大山阿夫利神社) [7] 比々多神社 [8] 高部屋神社 [9] 大山道の道標 [10] 納め太刀 [11] 元滝 [12] 良弁滝 [13] 愛宕滝 [14] 大滝 [15] 大山や大山詣りの様子が描かれた「浮世絵」 [16] 参道沿いに建てられた宿坊 [17] 豆腐料理 [18] 大山こま/市指定 (無形民俗) [19] 宝城坊 (日向薬師) の「神木のぼり」/市登録 (無形民俗) [20] 大山阿夫利神社の俊舞・巫子舞/県指定 (無形民俗) [21] 大山阿夫利神社の大山能狂言/市指定 (無形民俗)